

医療機関名

一般財団法人大阪府結核予防会大阪病院 (27111)

病床数 191床

対象期間

2017年1月1日～2017年12月31日

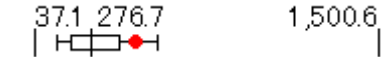
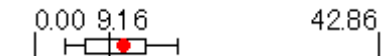










データ提出サマリー

- ① データ提出日 2018/2/1
- ② エラー件数 エラー：1件
注意・警告：73件
- ③ 還元情報作成日 2018/9/22
- ④ 全体集計日 2018/4/27
- ⑤ 集計対象医療機関数 483件

⑥ 検体提出状況	自施設				全体平均(100床あたり)*		
	検体提出数		検体提出患者数		検体提出数	検体提出患者数	
() は100床あたり							
当年	2017年	2,872	(1,503.7)	890	(466.0)	689.6	320.5
前年	2016年	2,436	(1,275.4)	906	(474.3)	696.5	324.9
一昨年	2015年	-	(-)	-	(-)	696.8	332.3
3年前	2014年	-	(-)	-	(-)	735.3	354.5

*全体平均 (100床あたり) は、当年の登録病床数で「200床以上/200床未満」別を判断した区分ごとの平均値を表示する。
2013年以前は全体の平均値を表示している。

1. 特定の耐性菌の分離患者数*と分離率 †

	2014年自施設 患者数(分離率)	2015年自施設 患者数(分離率)	2016年自施設 患者数(分離率)	2017年自施設 患者数(分離率)	全体の分離率 (当年) ‡	集計対象医療機関の分離率の分布 と自施設の分離率(当年)
検体提出患者数 (100床あたり)			906人 (474.3人)	890人 (466.0人)	221,899人 (320.5人)¶	37.1 276.7 1,500.6 
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)			82人 (9.05%)	98人 (11.01%)	21,905人 (9.87%)	0.00 9.16 42.86 
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)			0人 (0.00%)	0人 (0.00%)	0人 (0.00%)	0.00 
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)			0人 (0.00%)	0人 (0.00%)	32人 (0.01%)	0.00 0.00 1.75 
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)			5人 (0.55%)	3人 (0.34%)	841人 (0.38%)	0.00 0.00 14.45 
多剤耐性緑膿菌(MDRP)			0人 (0.00%)	0人 (0.00%)	150人 (0.07%)	0.00 0.00 2.73 
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)			0人 (0.00%)	0人 (0.00%)	0人 (0.00%)	0.00 
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)			2人 (0.22%)	2人 (0.22%)	293人 (0.13%)	0.00 0.00 1.84 
カルバペネム耐性緑膿菌			9人 (0.99%)	8人 (0.90%)	2,367人 (1.07%)	0.00 0.60 11.41 
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌			1人 (0.11%)	2人 (0.22%)	1,071人 (0.48%)	0.00 0.00 8.06 
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌			8人 (0.88%)	13人 (1.46%)	6,729人 (3.03%)	0.00 2.38 19.92 
フルオロキノロン耐性大腸菌			19人 (2.10%)	21人 (2.36%)	15,344人 (6.91%)	0.00 6.49 36.00 

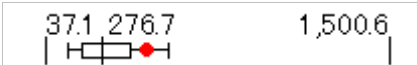
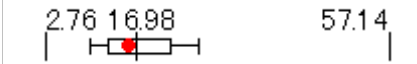




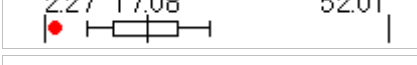





*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)しており、12ヶ月分の月報の患者数の合計と年報の患者数は異なる

† 分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

‡ 全体の分離率 = (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶ 病床数が登録されている医療機関のみが対象

2. 主要菌の分離患者数*と分離率 †

	2014年自施設 患者数(分離率)	2015年自施設 患者数(分離率)	2016年自施設 患者数(分離率)	2017年自施設 患者数(分離率)	全体の分離率 (当年) ‡	集計対象医療機関の分離率の分布 と自施設の分離率(当年)
検体提出患者数 (100床あたり)			906人 (474.3人)	890人 (466.0人)	221,899人 (320.5人) ¶	37.1 276.7 1,500.6 
<i>S. aureus</i>			124人 (13.69%)	141人 (15.84%)	38,463人 (17.33%)	2.76 16.98 57.14 
<i>S. epidermidis</i>			10人 (1.10%)	12人 (1.35%)	5,250人 (2.37%)	0.00 1.55 30.10 
<i>S. pneumoniae</i>			9人 (0.99%)	9人 (1.01%)	2,843人 (1.28%)	0.00 0.81 15.03 
<i>E. faecalis</i>			4人 (0.44%)	6人 (0.67%)	10,124人 (4.56%)	0.00 4.08 27.11 
<i>E. faecium</i>			5人 (0.55%)	4人 (0.45%)	3,375人 (1.52%)	0.00 1.16 8.83 
<i>E. coli</i>			32人 (3.53%)	34人 (3.82%)	36,737人 (16.56%)	2.27 17.08 52.01 
<i>K. pneumoniae</i>			20人 (2.21%)	31人 (3.48%)	16,588人 (7.48%)	0.00 7.16 33.19 
<i>Enterobacter spp.</i>			17人 (1.88%)	11人 (1.24%)	7,472人 (3.37%)	0.00 3.16 14.29 
<i>S. marcescens</i>			9人 (0.99%)	6人 (0.67%)	4,301人 (1.94%)	0.00 1.39 26.81 
<i>P. aeruginosa</i>			49人 (5.41%)	49人 (5.51%)	20,881人 (9.41%)	0.00 8.29 62.64 
<i>Acinetobacter spp.</i>			7人 (0.77%)	9人 (1.01%)	2,437人 (1.10%)	0.00 0.77 14.51 

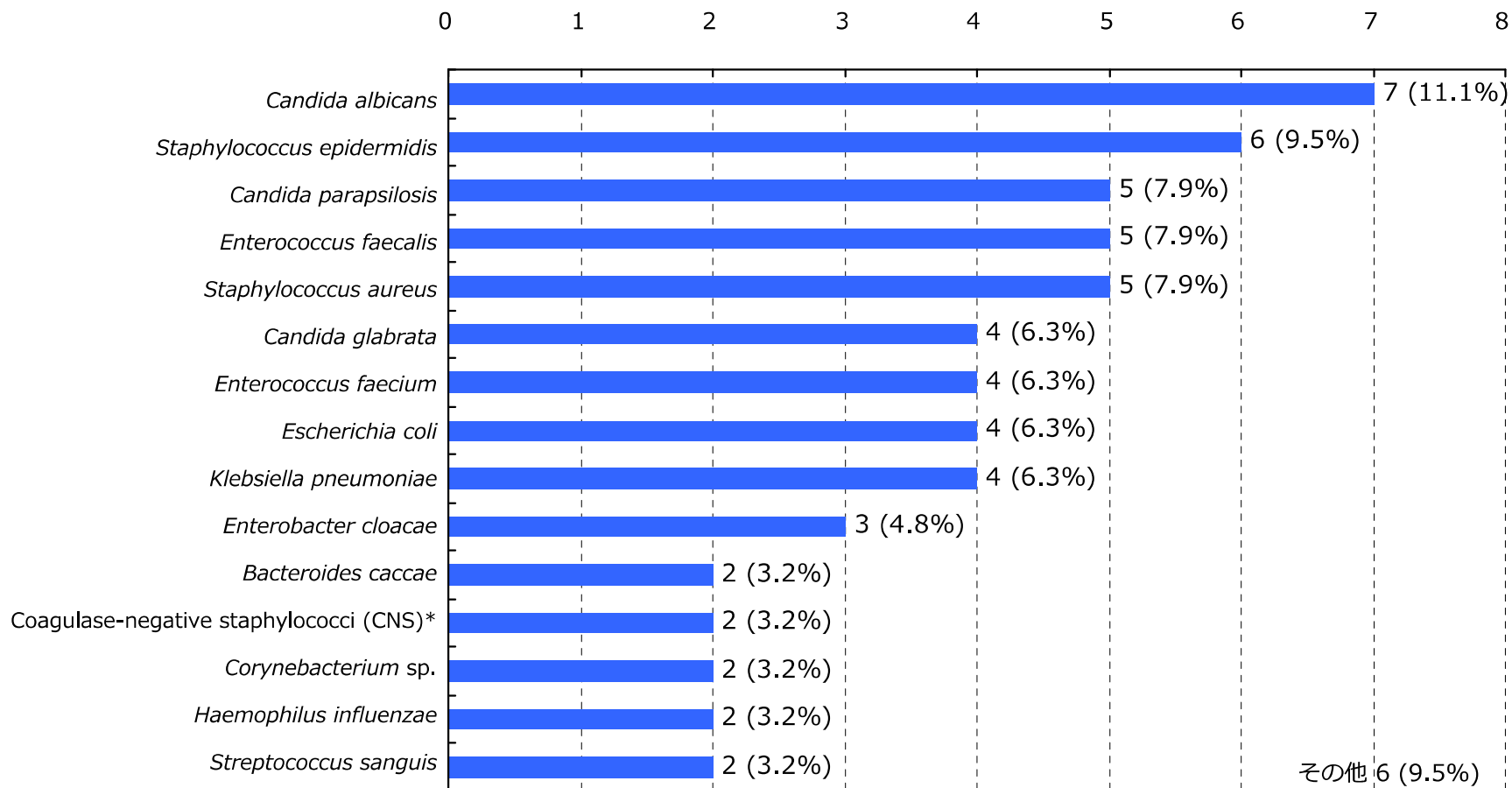
*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)しており、12ヶ月分の月報の患者数の合計と年報の患者数は異なる

† 分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

‡ 全体の分離率 = (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶ 病床数が登録されている医療機関のみが対象

3. 検査材料別分離菌数割合 (血液検体分離菌)



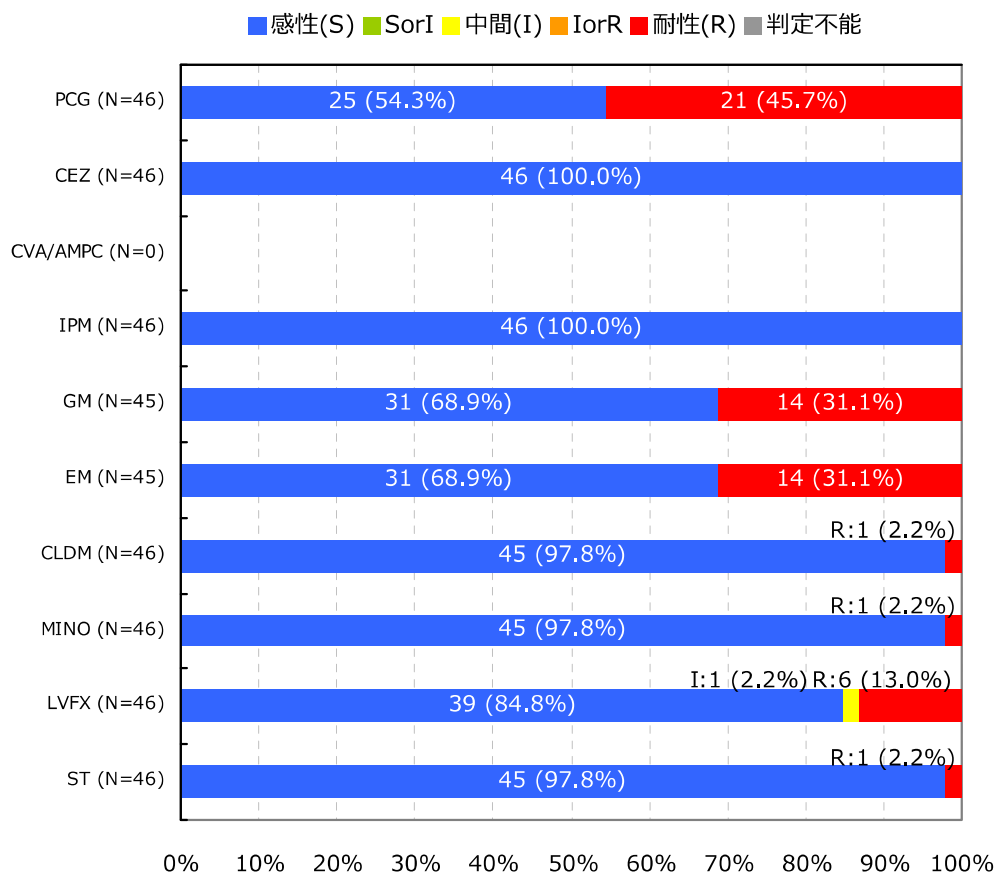
*検査部門公開情報年報 3. 検査材料別分離菌数割合の集計方法に準ずる

3. 検査材料別分離菌数割合（髄液検体分離菌）

※ 髄液検体から分離した菌はありませんでした。

4. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus aureus (MSSA) †



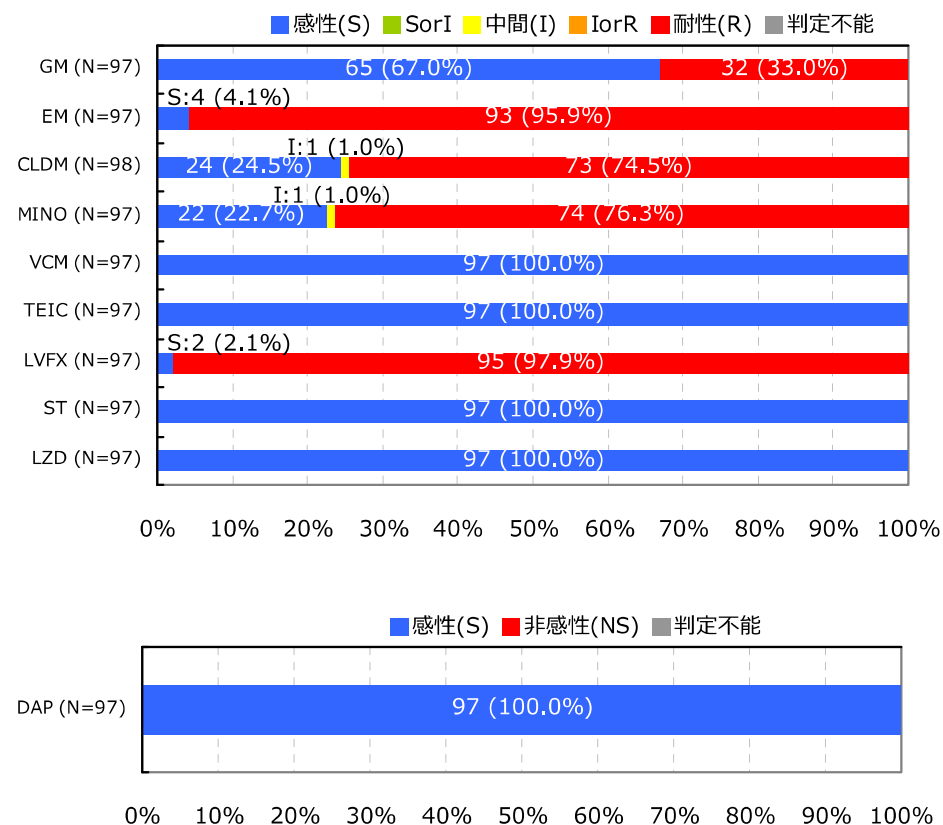
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード: 1301と報告され抗菌薬コード: 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

Staphylococcus aureus (MRSA) ‡



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

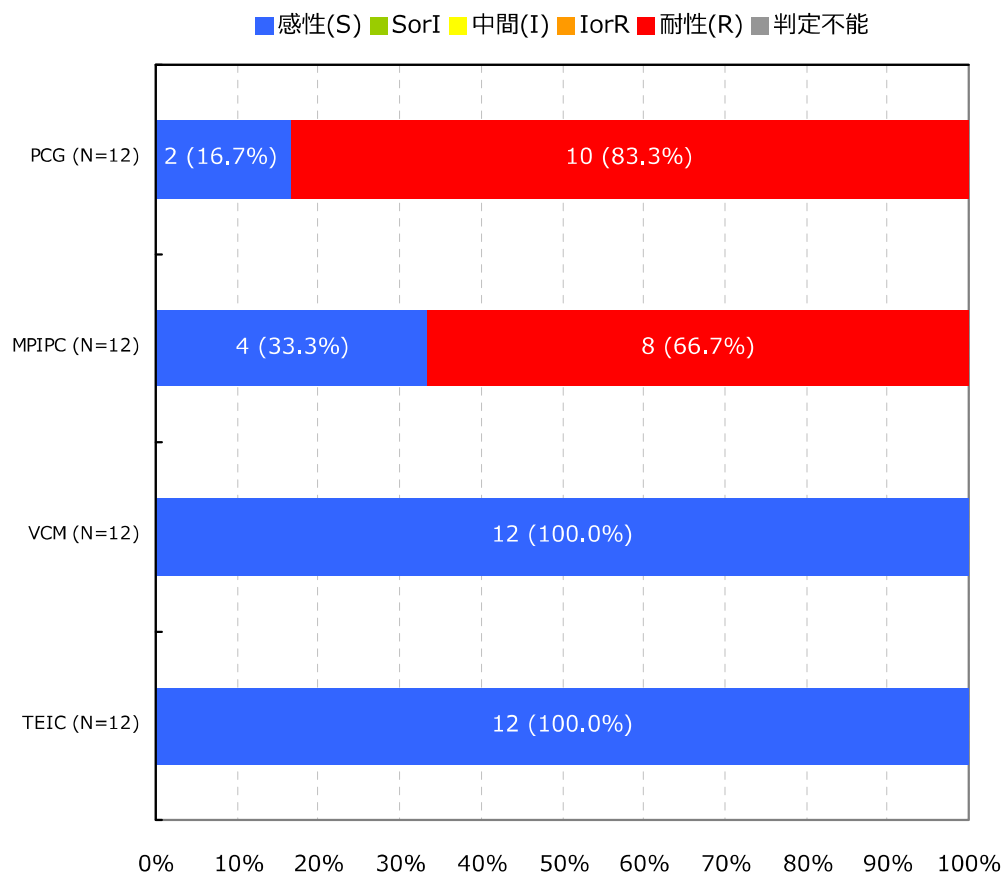
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

‡ 菌名コード: 1303と報告された菌および菌名コード: 1301と報告され抗菌薬コード: 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

4. 主要菌の抗菌薬感受性*

Staphylococcus epidermidis †



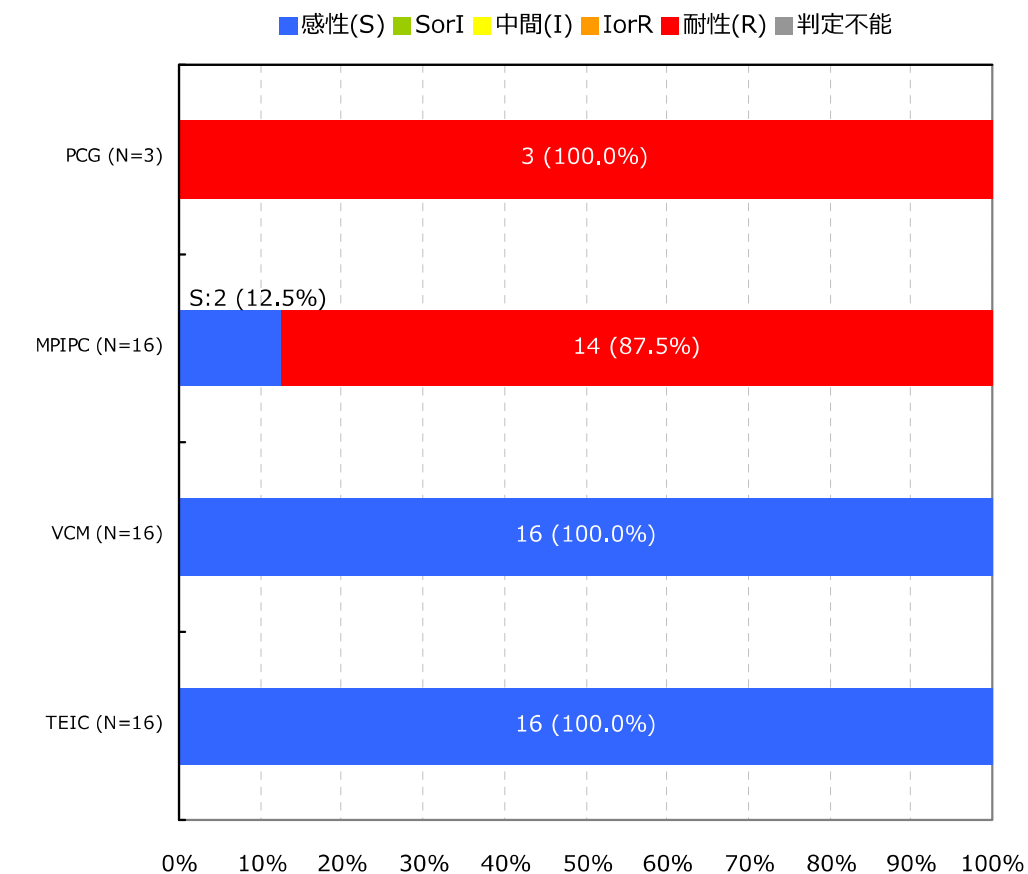
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

Coagulase-negative staphylococci (CNS) ‡



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

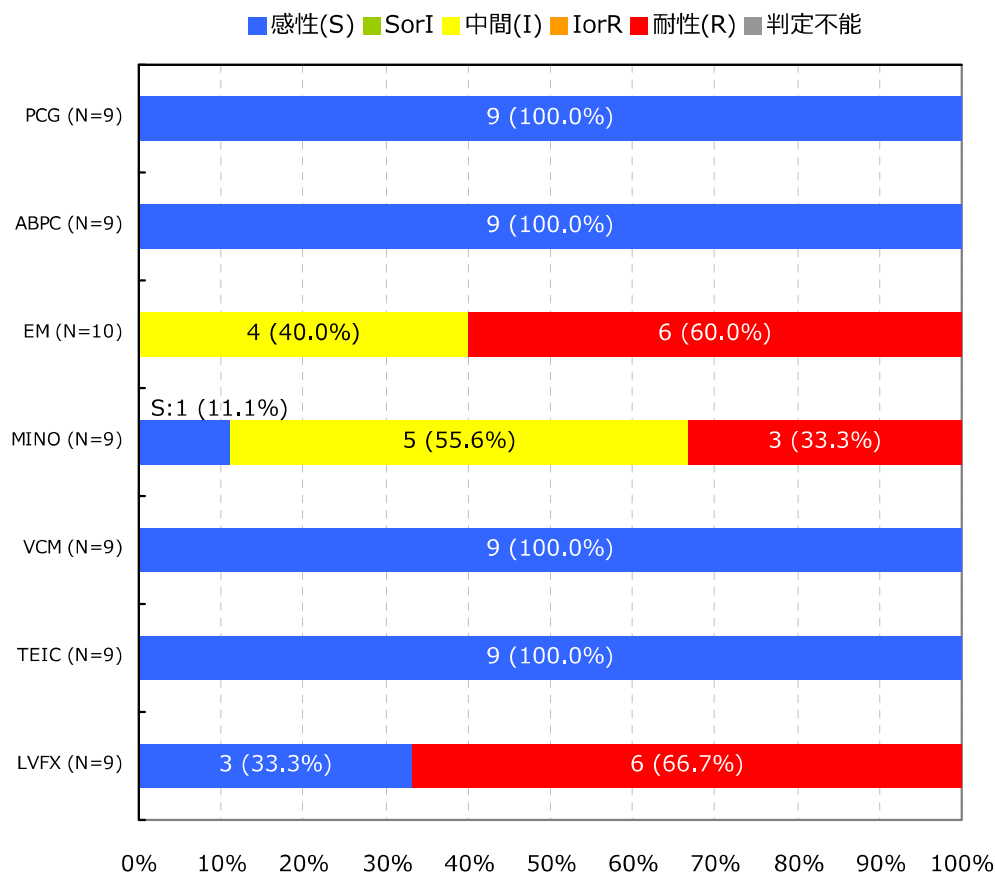
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

‡ 菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312: *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

4. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterococcus faecalis †



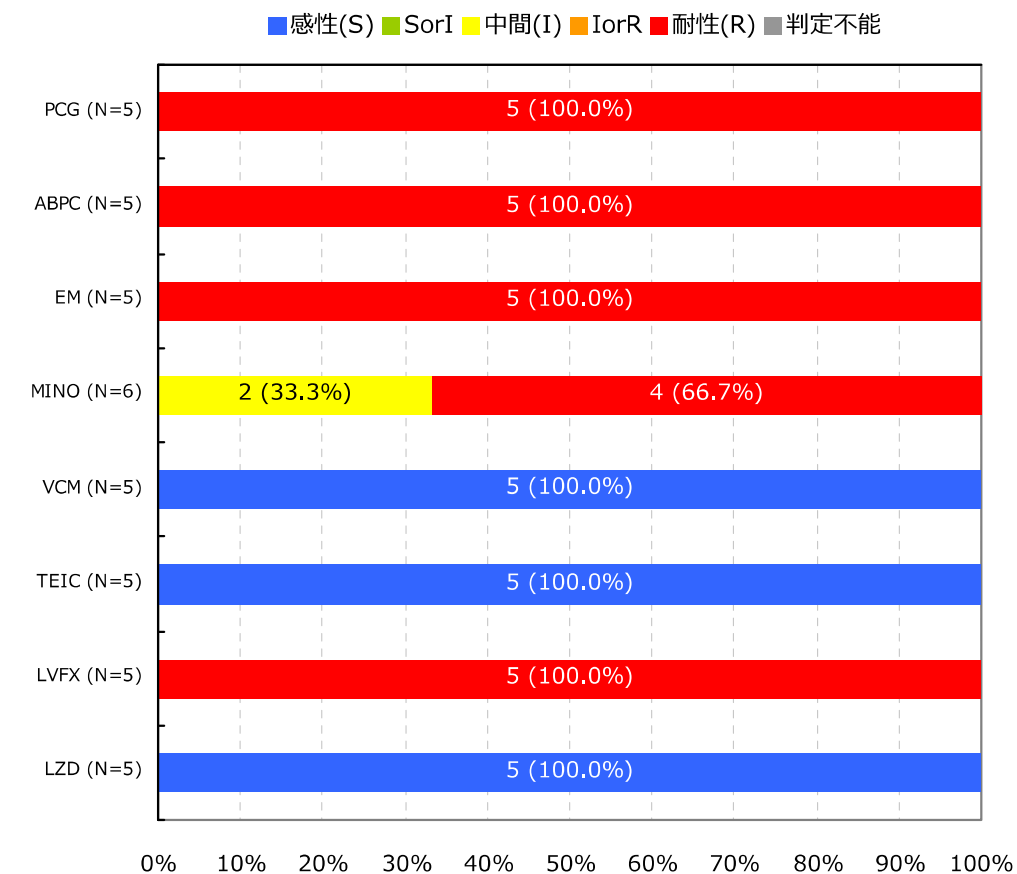
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1201, 1202と報告された菌

Enterococcus faecium †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

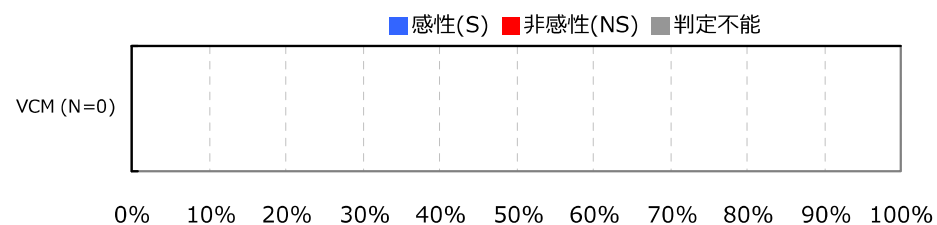
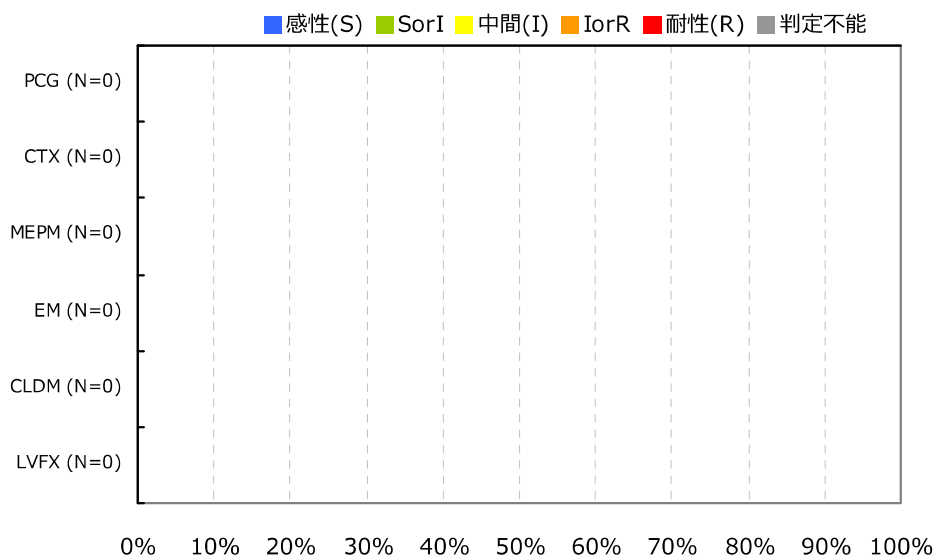
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

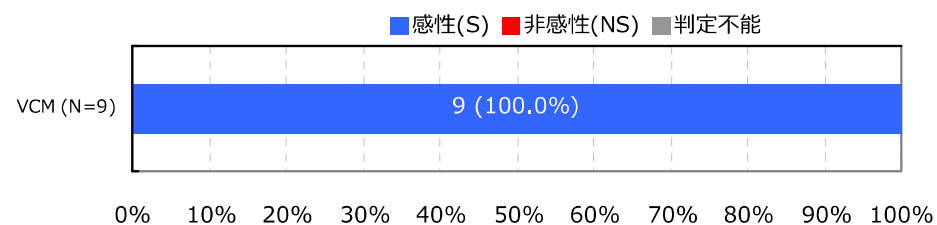
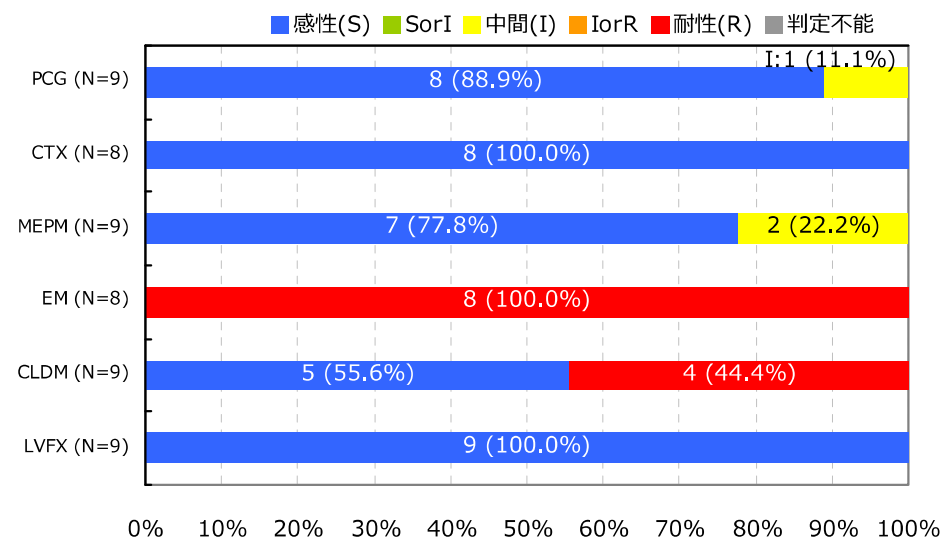
† 菌名コード: 1205, 1206と報告された菌

4. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pneumoniae(髄液検体) †



Streptococcus pneumoniae(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

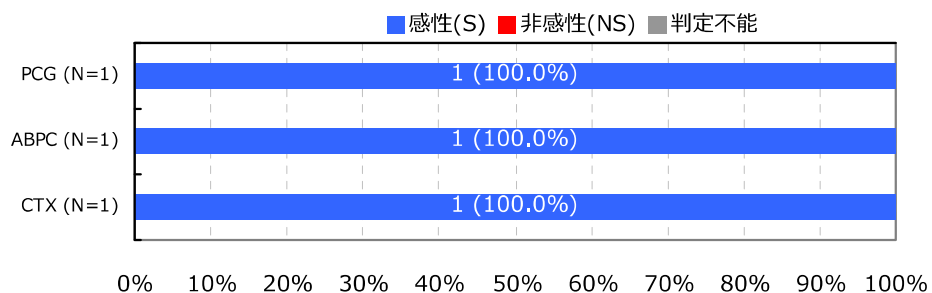
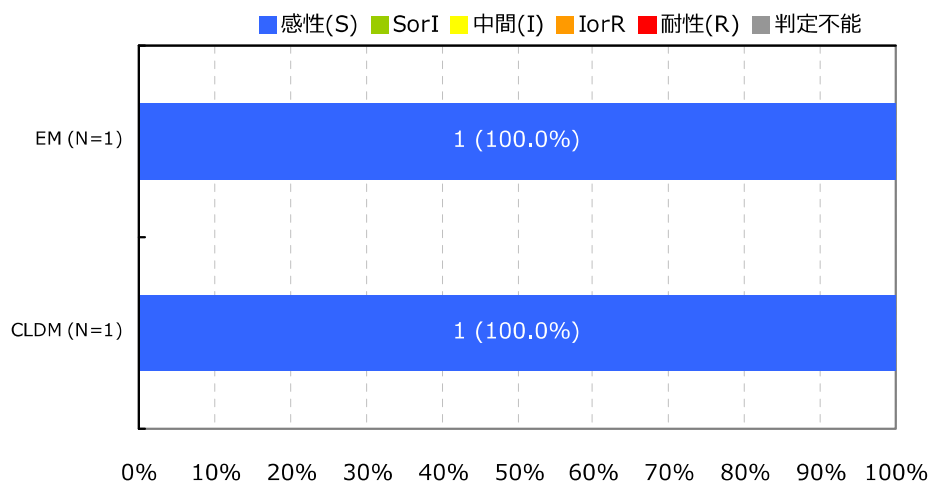
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

4. 主要菌の抗菌薬感受性*

Streptococcus pyogenes †

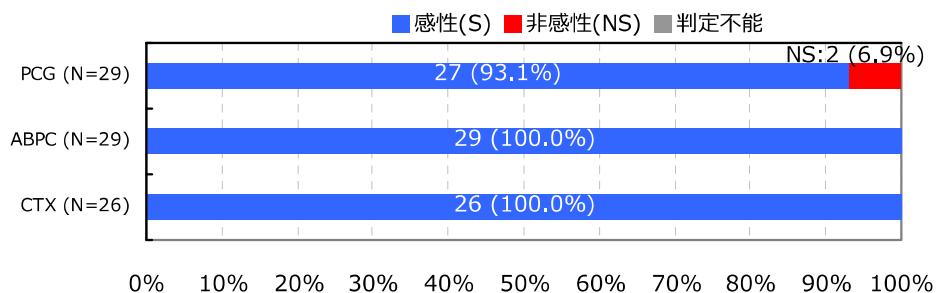
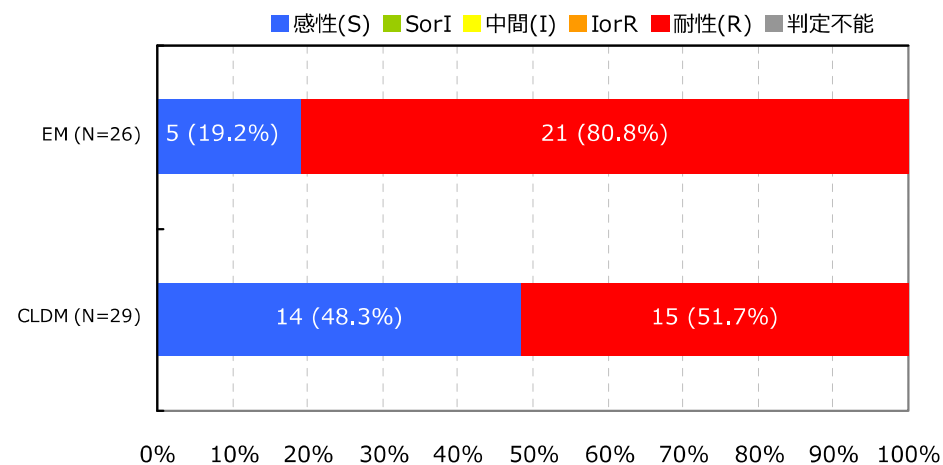


入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌

Streptococcus agalactiae ‡



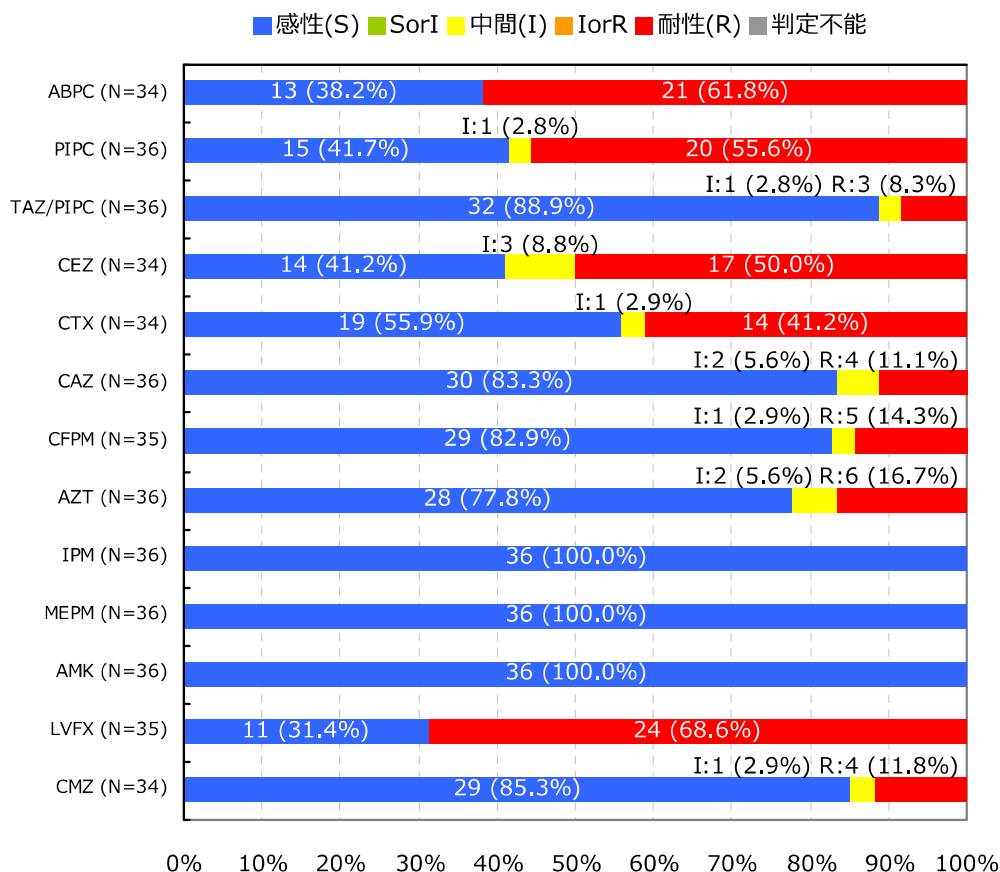
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

‡ 菌名コード：1114と報告された菌

4. 主要菌の抗菌薬感受性*

Escherichia coli †

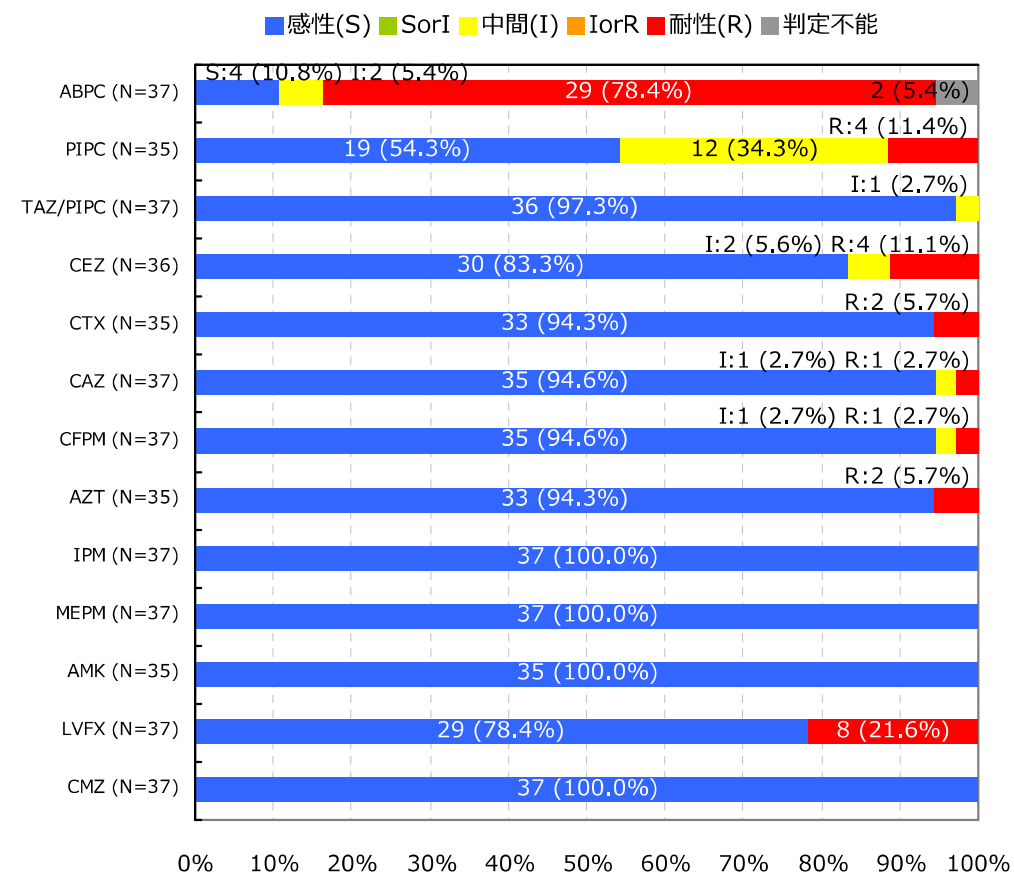


入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

Klebsiella pneumoniae ‡



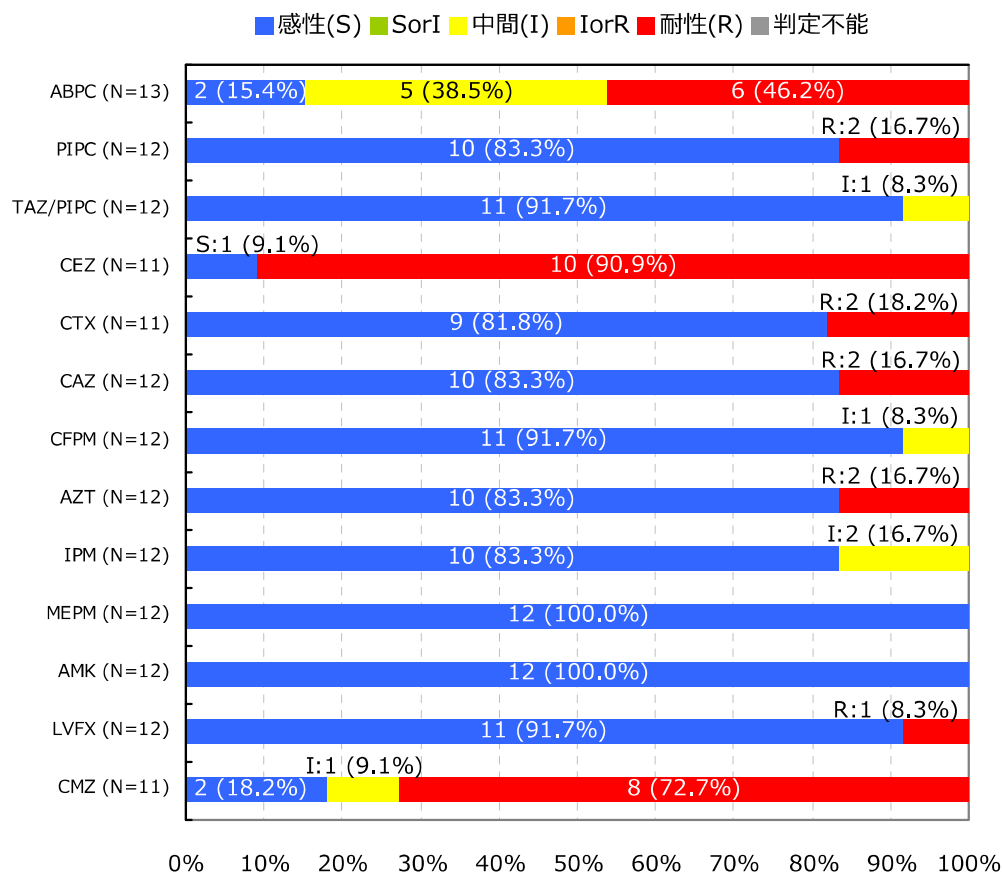
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

‡ 菌名コード：2351と報告された菌

4. 主要菌の抗菌薬感受性*

Enterobacter cloacae †



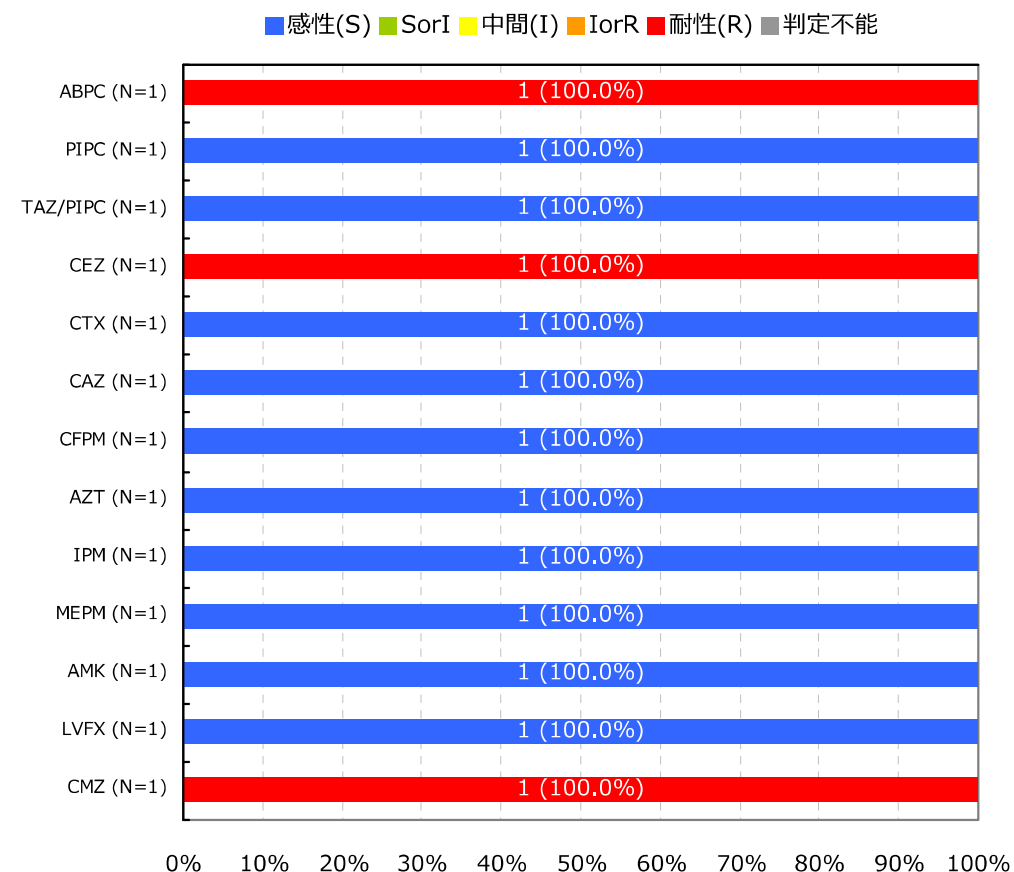
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2151と報告された菌

Enterobacter aerogenes ‡



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

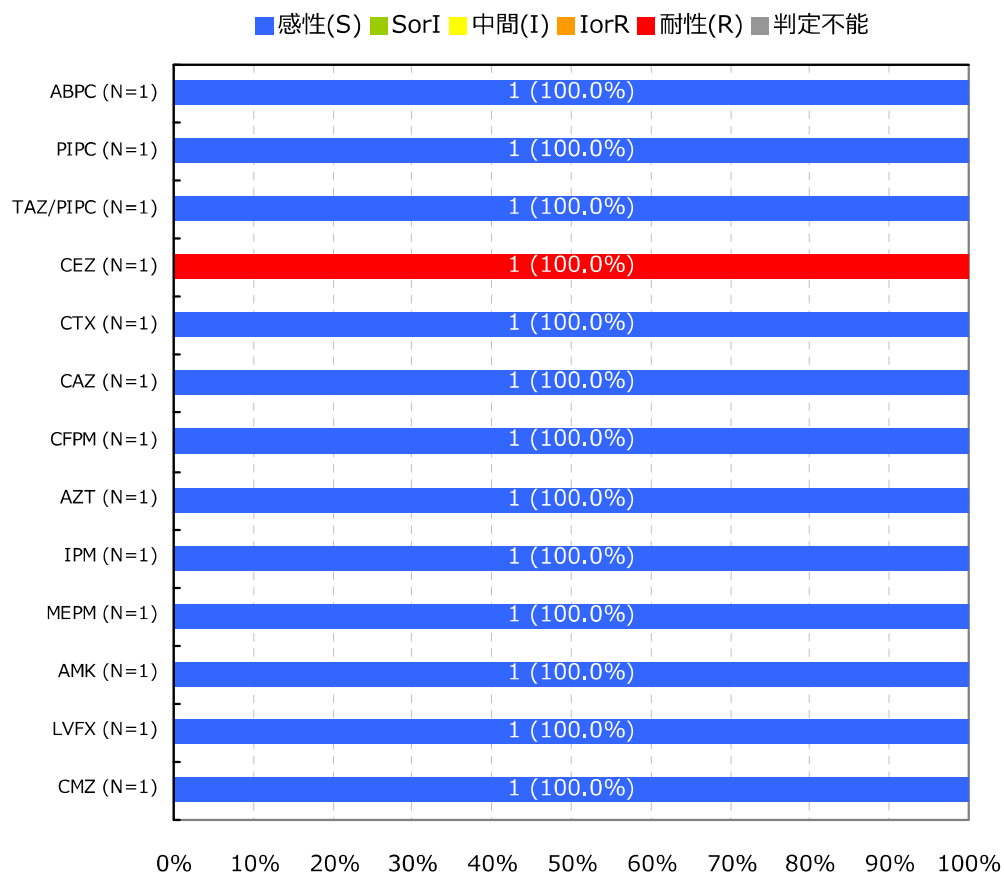
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

‡ 菌名コード：2152と報告された菌

4. 主要菌の抗菌薬感受性*

Citrobacter freundii †

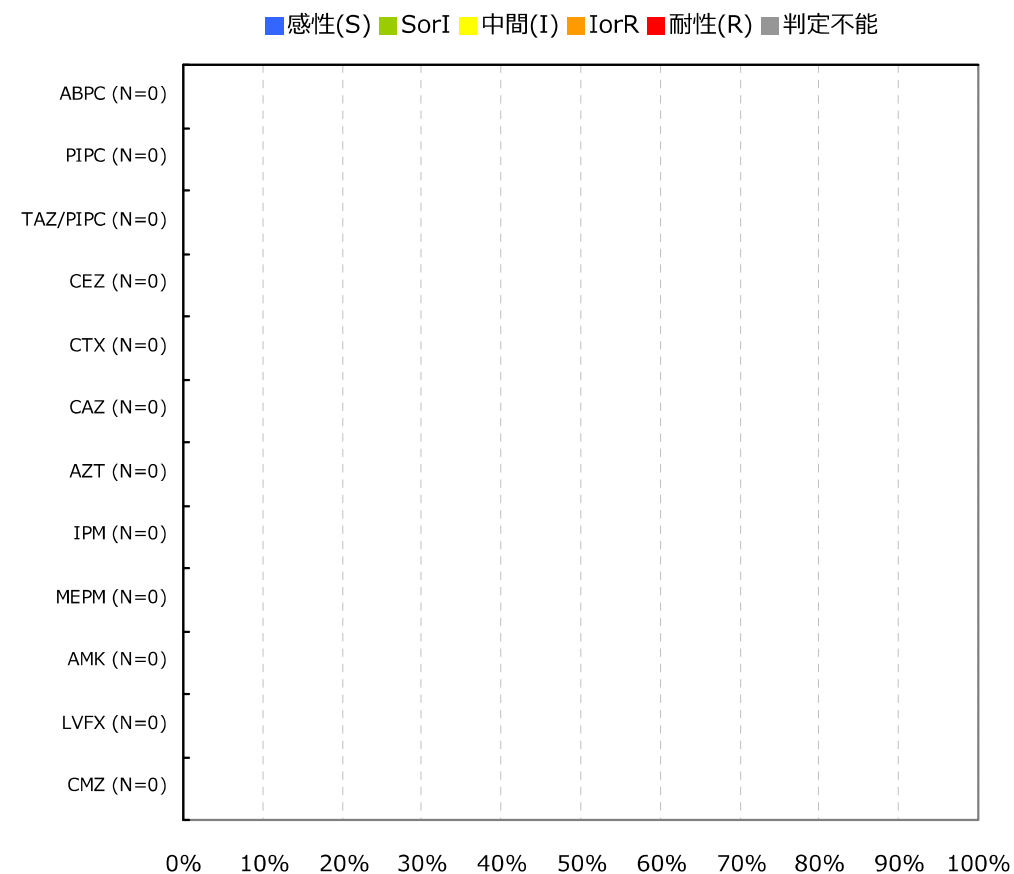


入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

Citrobacter koseri †



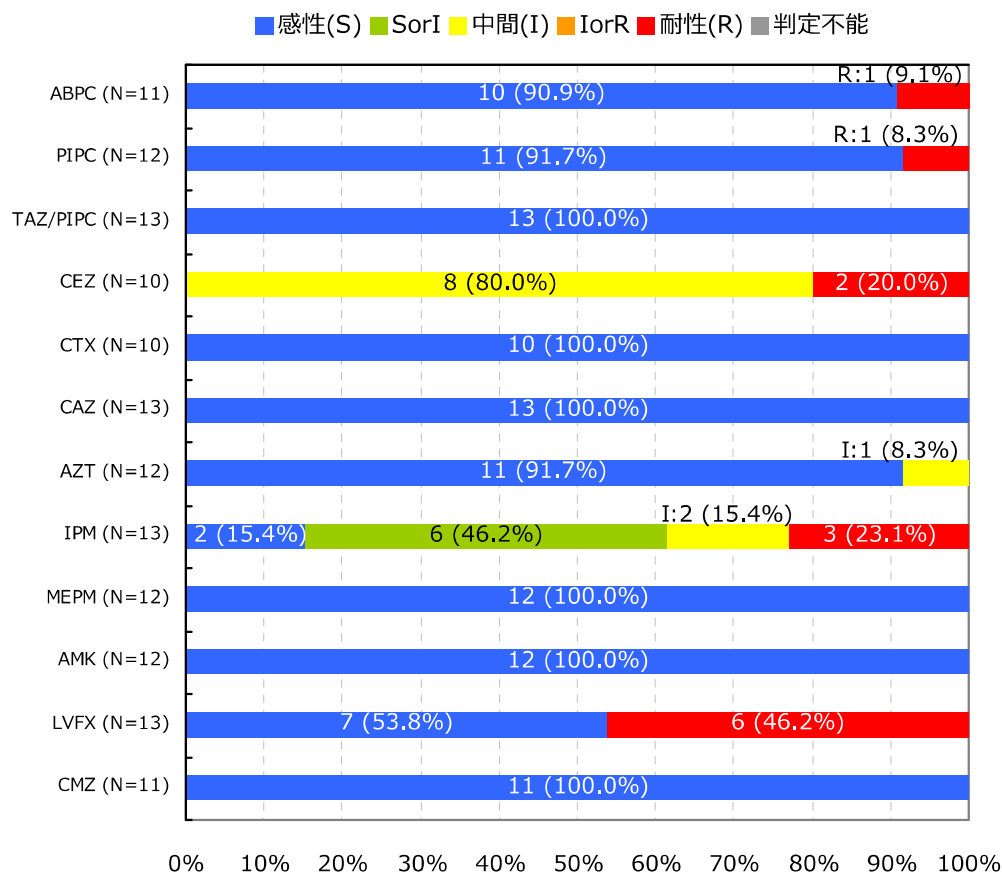
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

4. 主要菌の抗菌薬感受性*

Proteus mirabilis †



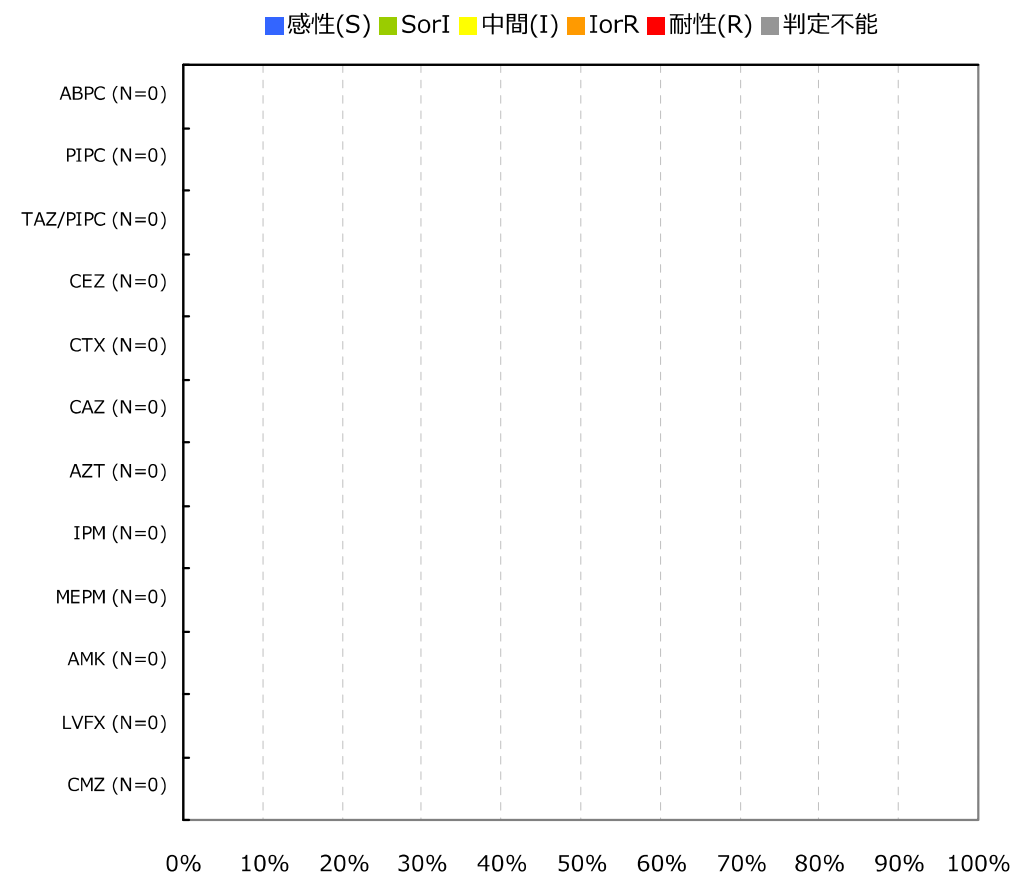
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

Proteus vulgaris †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

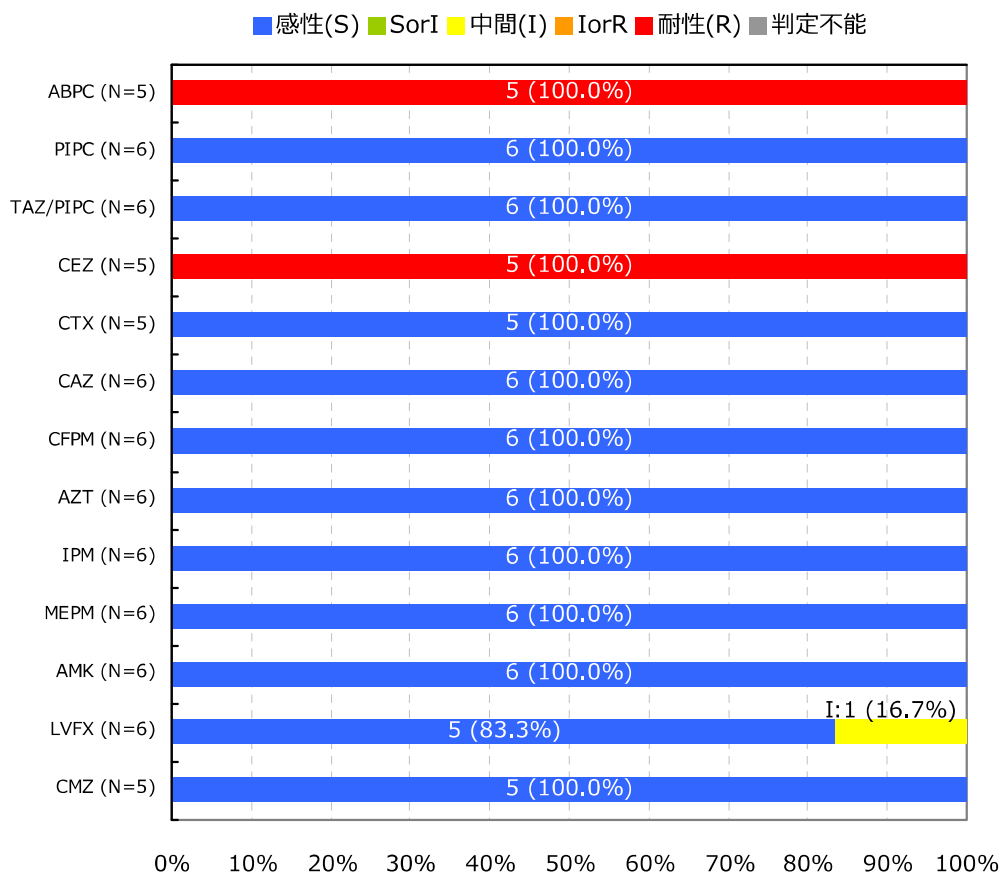
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

4. 主要菌の抗菌薬感受性*

Serratia marcescens †



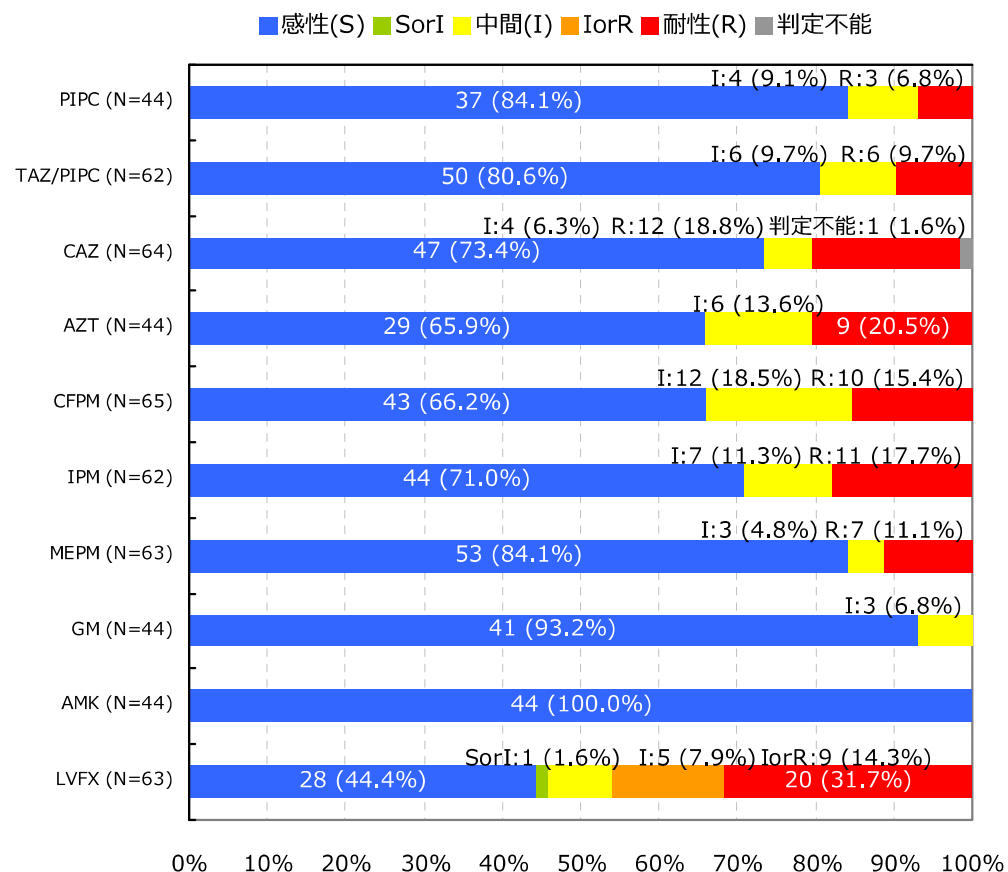
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

Pseudomonas aeruginosa †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

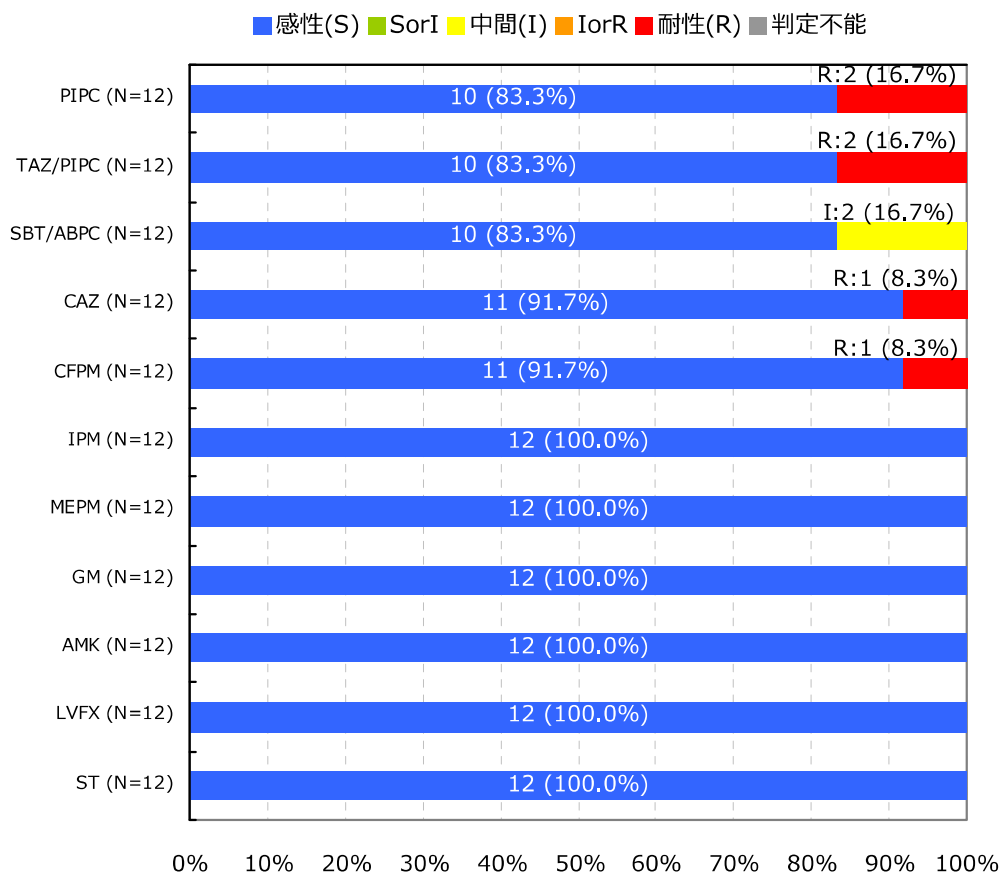
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

4. 主要菌の抗菌薬感受性*

Acinetobacter spp. †



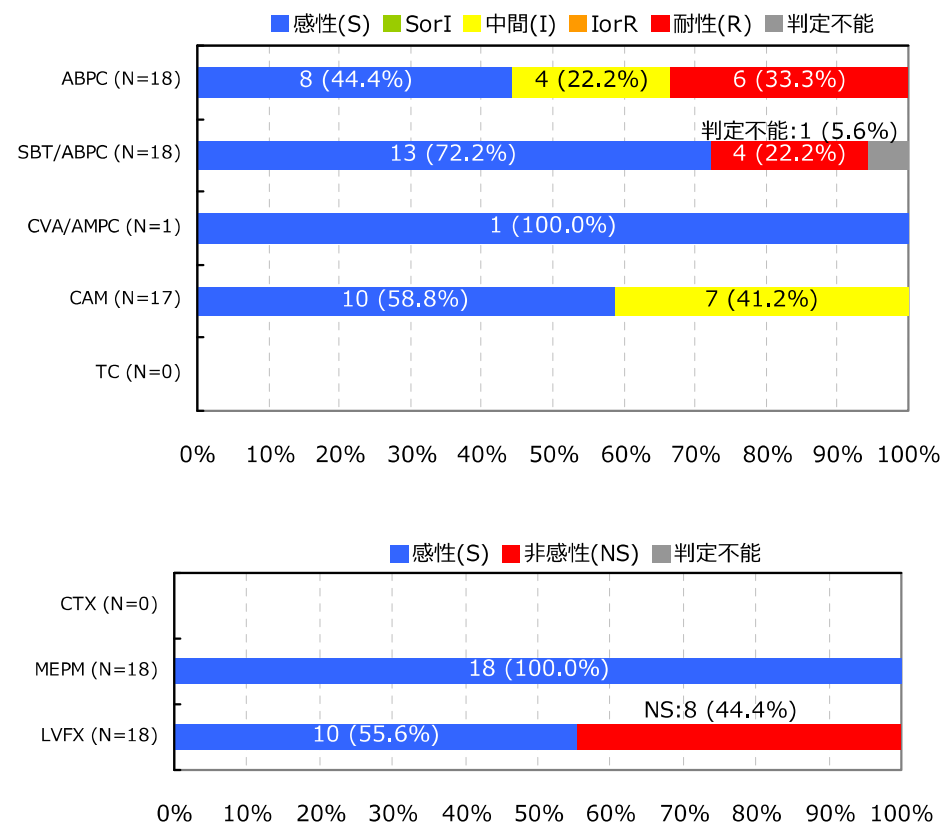
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4400~4403と報告された菌

Haemophilus influenzae ‡



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

‡ 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

5. 病棟別、特定の耐性菌・主要菌の分離患者数

	病院全体	B2	B3	B4	B5	B6								
検体提出患者数	890	1	355	240	46	272								
MRSA	98	0	33	14	5	46								
VRSA	0	0	0	0	0	0								
VRE	0	0	0	0	0	0								
PRSP	3	0	2	0	1	0								
MDRP	0	0	0	0	0	0								
MDRA	0	0	0	0	0	0								
CRE	2	0	0	0	0	2								
カルバペネム耐性緑膿菌	8	0	6	1	1	0								
第三世代セフトロ素 [®] リン耐性肺炎桿菌	2	0	2	0	0	0								
第三世代セフトロ素 [®] リン耐性大腸菌	13	0	5	4	1	3								
フルオロキノロン耐性大腸菌	21	0	11	5	2	3								
<i>S. aureus</i>	141	0	54	34	5	49								
<i>S. epidermidis</i>	12	0	5	3	1	3								
<i>S. pneumoniae</i>	9	0	2	0	4	3								
<i>E. faecalis</i>	6	0	5	1	0	0								
<i>E. faecium</i>	4	0	3	1	0	0								
<i>E. coli</i>	34	0	18	8	2	6								
<i>K. pneumoniae</i>	31	0	13	5	2	11								
<i>Enterobacter</i> spp.	11	0	3	5	0	3								
<i>S. marcescens</i>	6	0	1	1	4	0								
<i>P. aeruginosa</i>	49	0	19	14	10	7								
<i>Acinetobacter</i> spp.	9	0	6	1	0	2								

同一患者から同一菌種が複数の病棟から提出された場合は各病棟で菌分離患者数として集計しており、病棟別の菌分離患者数の合計は病院全体の菌分離患者数を上回ることもある。

6. 検査材料別、特定の耐性菌・主要菌の分離患者数(呼吸器系検体)

	病院全体	呼吸器系 検体	喀出痰	気管支洗 浄液	鼻腔内	その他 (呼吸器)	胸水							
検体提出患者数	890	748	706	60	22	19	57							
MRSA	98	86	86	0	0	0	0							
VRSA	0	0	0	0	0	0	0							
VRE	0	0	0	0	0	0	0							
PRSP	3	3	3	0	0	0	0							
MDRP	0	0	0	0	0	0	0							
MDRA	0	0	0	0	0	0	0							
CRE	2	2	2	0	0	0	0							
カルバペネム耐性緑膿菌	8	8	8	0	0	0	0							
第三世代セフトロ素 [®] リン耐性肺炎桿菌	2	1	1	0	0	0	0							
第三世代セフトロ素 [®] リン耐性大腸菌	13	7	7	0	0	0	0							
フルオロキノロン耐性大腸菌	21	9	9	0	0	0	0							
<i>S. aureus</i>	141	120	112	0	7	0	2							
<i>S. epidermidis</i>	12	4	2	0	0	1	1							
<i>S. pneumoniae</i>	9	9	9	0	0	0	0							
<i>E. faecalis</i>	6	0	0	0	0	0	0							
<i>E. faecium</i>	4	0	0	0	0	0	0							
<i>E. coli</i>	34	13	13	0	0	0	0							
<i>K. pneumoniae</i>	31	21	21	0	0	0	0							
<i>Enterobacter spp.</i>	11	8	8	0	0	0	0							
<i>S. marcescens</i>	6	6	6	0	0	0	0							
<i>P. aeruginosa</i>	49	46	46	1	0	1	1							
<i>Acinetobacter spp.</i>	9	9	9	0	0	0	0							

同一患者から同一菌種が複数の検査材料から提出された場合は各検査材料で菌分離患者数として集計しており、検査材料別の菌分離患者数の合計は病院全体の菌分離患者数を上回ることがある。

6. 検査材料別、特定の耐性菌・主要菌の分離患者数(尿検体)

	病院全体	尿検体	自然排尿	カテーテル尿 (採)										
検体提出患者数	890	103	78	27										
MRSA	98	2	0	2										
VRSA	0	0	0	0										
VRE	0	0	0	0										
PRSP	3	0	0	0										
MDRP	0	0	0	0										
MDRA	0	0	0	0										
CRE	2	0	0	0										
カルバペネム耐性緑膿菌	8	0	0	0										
第三世代セフトロ素 [®] リン耐性肺炎桿菌	2	1	1	0										
第三世代セフトロ素 [®] リン耐性大腸菌	13	4	4	0										
フルオロキノロン耐性大腸菌	21	10	7	4										
<i>S. aureus</i>	141	3	0	3										
<i>S. epidermidis</i>	12	0	0	0										
<i>S. pneumoniae</i>	9	0	0	0										
<i>E. faecalis</i>	6	3	1	3										
<i>E. faecium</i>	4	3	1	2										
<i>E. coli</i>	34	17	13	5										
<i>K. pneumoniae</i>	31	9	4	5										
<i>Enterobacter spp.</i>	11	1	0	1										
<i>S. marcescens</i>	6	0	0	0										
<i>P. aeruginosa</i>	49	2	1	1										
<i>Acinetobacter spp.</i>	9	0	0	0										

同一患者から同一菌種が複数の検査材料から提出された場合は各検査材料で菌分離患者数として集計しており、検査材料別の菌分離患者数の合計は病院全体の菌分離患者数を上回ることがある。

6. 検査材料別、特定の耐性菌・主要菌の分離患者数(便検体)

	病院全体	便検体	糞便											
検体提出患者数	890	104	104											
MRSA	98	4	4											
VRSA	0	0	0											
VRE	0	0	0											
PRSP	3	0	0											
MDRP	0	0	0											
MDRA	0	0	0											
CRE	2	0	0											
カルバペネム耐性緑膿菌	8	0	0											
第三世代セフトロソリン耐性肺炎桿菌	2	0	0											
第三世代セフトロソリン耐性大腸菌	13	0	0											
フルオロキノロン耐性大腸菌	21	0	0											
<i>S. aureus</i>	141	4	4											
<i>S. epidermidis</i>	12	0	0											
<i>S. pneumoniae</i>	9	0	0											
<i>E. faecalis</i>	6	0	0											
<i>E. faecium</i>	4	0	0											
<i>E. coli</i>	34	1	1											
<i>K. pneumoniae</i>	31	0	0											
<i>Enterobacter spp.</i>	11	0	0											
<i>S. marcescens</i>	6	0	0											
<i>P. aeruginosa</i>	49	0	0											
<i>Acinetobacter spp.</i>	9	0	0											

同一患者から同一菌種が複数の検査材料から提出された場合は各検査材料で菌分離患者数として集計しており、検査材料別の菌分離患者数の合計は病院全体の菌分離患者数を上回ることがある。

6. 検査材料別、特定の耐性菌・主要菌の分離患者数(血液検体)

	病院全体	血液検体	静脈血											
検体提出患者数	890	185	185											
MRSA	98	3	3											
VRSA	0	0	0											
VRE	0	0	0											
PRSP	3	0	0											
MDRP	0	0	0											
MDRA	0	0	0											
CRE	2	0	0											
カルバペネム耐性緑膿菌	8	0	0											
第三世代セフトロ素 [®] リン耐性肺炎桿菌	2	0	0											
第三世代セフトロ素 [®] リン耐性大腸菌	13	1	1											
フルオロキノロン耐性大腸菌	21	1	1											
<i>S. aureus</i>	141	4	4											
<i>S. epidermidis</i>	12	5	5											
<i>S. pneumoniae</i>	9	0	0											
<i>E. faecalis</i>	6	3	3											
<i>E. faecium</i>	4	1	1											
<i>E. coli</i>	34	2	2											
<i>K. pneumoniae</i>	31	2	2											
<i>Enterobacter spp.</i>	11	1	1											
<i>S. marcescens</i>	6	0	0											
<i>P. aeruginosa</i>	49	1	1											
<i>Acinetobacter spp.</i>	9	0	0											

同一患者から同一菌種が複数の検査材料から提出された場合は各検査材料で菌分離患者数として集計しており、検査材料別の菌分離患者数の合計は病院全体の菌分離患者数を上回ることがある。

6. 検査材料別、特定の耐性菌・主要菌の分離患者数(髄液検体)

	病院全体	髄液検体												
検体提出患者数	890	0												
MRSA	98	0												
VRSA	0	0												
VRE	0	0												
PRSP	3	0												
MDRP	0	0												
MDRA	0	0												
CRE	2	0												
カルバペネム耐性緑膿菌	8	0												
第三世代セフトロキソン耐性肺炎桿菌	2	0												
第三世代セフトロキソン耐性大腸菌	13	0												
フルオロキノロン耐性大腸菌	21	0												
<i>S. aureus</i>	141	0												
<i>S. epidermidis</i>	12	0												
<i>S. pneumoniae</i>	9	0												
<i>E. faecalis</i>	6	0												
<i>E. faecium</i>	4	0												
<i>E. coli</i>	34	0												
<i>K. pneumoniae</i>	31	0												
<i>Enterobacter spp.</i>	11	0												
<i>S. marcescens</i>	6	0												
<i>P. aeruginosa</i>	49	0												
<i>Acinetobacter spp.</i>	9	0												

同一患者から同一菌種が複数の検査材料から提出された場合は各検査材料で菌分離患者数として集計しており、検査材料別の菌分離患者数の合計は病院全体の菌分離患者数を上回ることがある。

6. 検査材料別、特定の耐性菌・主要菌の分離患者数(その他)

	病院全体	その他	胃・十二指腸液	関節液	心嚢水	その他(穿刺液)	皮膚	開放性膿	閉鎖性膿	カテーテル刺入部	その他の材料			
検体提出患者数	890	171	17	8	1	5	1	29	12	13	97			
MRSA	98	11	0	0	0	0	1	7	2	3	0			
VRSA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
VRE	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
PRSP	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
MDRP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
MDRA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
CRE	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
カルバペネム耐性緑膿菌	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
第三世代セフトロ素 [®] リン耐性肺炎桿菌	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
第三世代セフトロ素 [®] リン耐性大腸菌	13	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0			
フルオロキノロン耐性大腸菌	21	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0			
<i>S. aureus</i>	141	19	0	1	0	0	1	9	4	4	2			
<i>S. epidermidis</i>	12	3	0	0	0	0	0	2	0	1	0			
<i>S. pneumoniae</i>	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
<i>E. faecalis</i>	6	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0			
<i>E. faecium</i>	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
<i>E. coli</i>	34	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0			
<i>K. pneumoniae</i>	31	3	0	0	0	0	0	1	0	2	0			
<i>Enterobacter spp.</i>	11	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0			
<i>S. marcescens</i>	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
<i>P. aeruginosa</i>	49	3	0	0	0	0	0	1	0	0	2			
<i>Acinetobacter spp.</i>	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			

同一患者から同一菌種が複数の検査材料から提出された場合は各検査材料で菌分離患者数として集計しており、検査材料別の菌分離患者数の合計は病院全体の菌分離患者数を上回ることがある。

【巻末資料 1 主要菌の菌名コード / 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

主要菌の菌名コード（薬剤感受性条件なし）

菌名	菌名コード Ver.4.1
<i>Staphylococcus aureus</i>	1301,1303-1306
<i>Staphylococcus epidermidis</i>	1312
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	1131
<i>Enterococcus faecalis</i>	1201,1202
<i>Enterococcus faecium</i>	1205,1206
<i>Escherichia coli</i>	2001-2007
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	2351
<i>Enterobacter</i> spp.	2150-2156
<i>Serratia marcescens</i>	2101
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	4001
<i>Acinetobacter</i> spp.	4400-4403

「微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準」について

耐性菌の菌名※は以下の通り

MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant Enterobacteriaceae カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015年1月より集計開始）

* : 原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† : 感染症発生動向調査の基準に準拠

2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。
薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準

菌名※	概要*	微量液体希釈法 (MIC 値)	菌名コード Ver.4.1
MRSA	MPIPC が “R” の <i>S. aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌	MPIPC $\geq 4\mu\text{g}/\text{mL}$	1301,1303
VRSA	VCM が微量液体希釈法で “R” の <i>S. aureus</i>	VCM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$	1301,1303-1306
VRE	下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・ VCM が微量液体希釈法で耐性† ・ 選択培地で VRE と確認された菌 (注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く	VCM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ †	1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217
PRSP	PCG が微量液体希釈法で耐性† の <i>S. pneumoniae</i>	PCG $\geq 0.125\mu\text{g}/\text{mL}$ †	1131
MDRP	下記全てに該当する <i>P. aeruginosa</i> 1. カルバペネム系 (IPM、MEPM の何れか) が 微量液体希釈法で耐性† 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈 法で耐性† 3. フルオロキノロン系 (NFLX、OFLX、LVFX、 CPFX、LFLX、GFLX の何れか) が “R”	1. IPM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g}/\text{mL}$ † 3. NFLX $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g}/\text{mL}$	4001

菌名※	概要*	微量液体希釈法 (MIC 値)	菌名コード Ver.4.1
MDRA	下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系 (IPM、MEPM の何れか) が “R” 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈 法で耐性† 3. フルオロキノロン系 (LVFX、CPFX、GFLX の 何れか) が “R”	1. IPM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g}/\text{mL}$ † 3. LVFX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$	4400-4403
CRE	下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性† 2. IPM が耐性†、かつ CMZ が “R”	1. MEPM $\geq 2\mu\text{g}/\text{mL}$ † 2. IPM $\geq 2\mu\text{g}/\text{mL}$ † かつ CMZ $\geq 64\mu\text{g}/\text{mL}$	2000-2691, 3150-3151
カルバペネム 耐性緑膿菌	IPM または MEPM が耐性† の <i>P. aeruginosa</i>	IPM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ † MEPM $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ †	4001
第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌	CTX または CAZ が “R” の <i>K. pneumoniae</i>	CTX $\geq 4\mu\text{g}/\text{mL}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$	2351
第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌	CTX または CAZ が “R” の <i>E. coli</i>	CTX $\geq 4\mu\text{g}/\text{mL}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$	2001-2007
フルオロキノロン 耐性大腸菌	フルオロキノロン系 (NFLX、OFLX、LVFX、LFLX、 GFLX、CPFX の何れか) が “R” の <i>E. coli</i>	NFLX $\geq 16\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$ 、 CPFX $\geq 4\mu\text{g}/\text{mL}$	2001-2007

【巻末資料 2 還元情報の集計方法について】

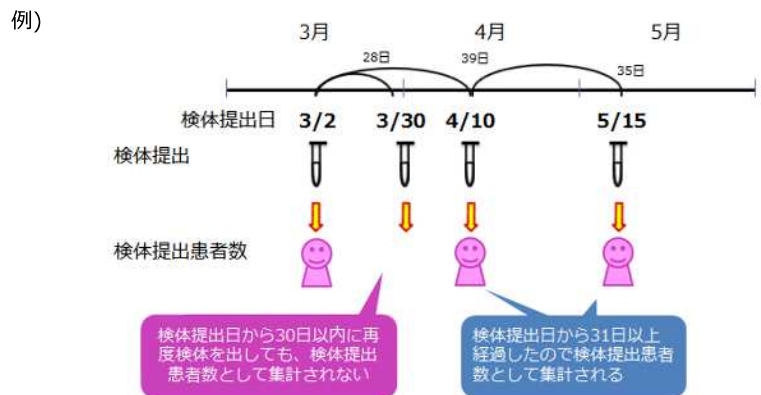
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を1日目とする。検体提出日が3月1日とすると、1日目が3月2日、30日目が3月31日となる。



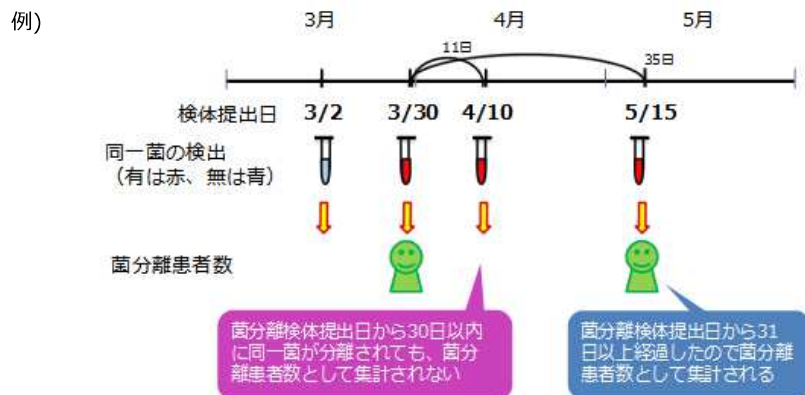
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30日以内の同一患者からの複数の検体提出は1件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は1件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



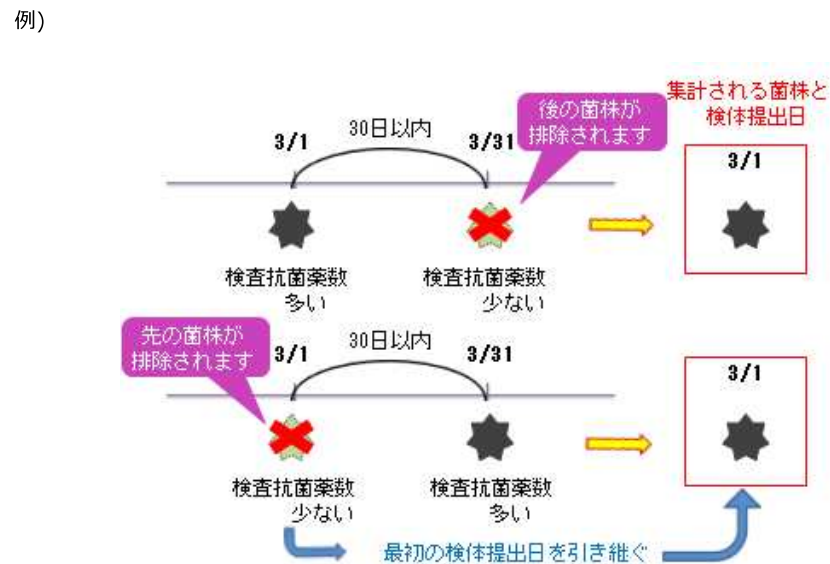
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に1つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC値に4倍以上の違いがある
ただし、 $MIC > 2$ は $MIC \geq 4$ と考え、判定時は $MIC = 4$ として扱う
また、 $MIC < 16$ は $MIC \leq 16$ と考え、判定時は $MIC = 16$ として扱う
- ② SIR判定では「SとR」の組み合わせ
- ③ +/-判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が5未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

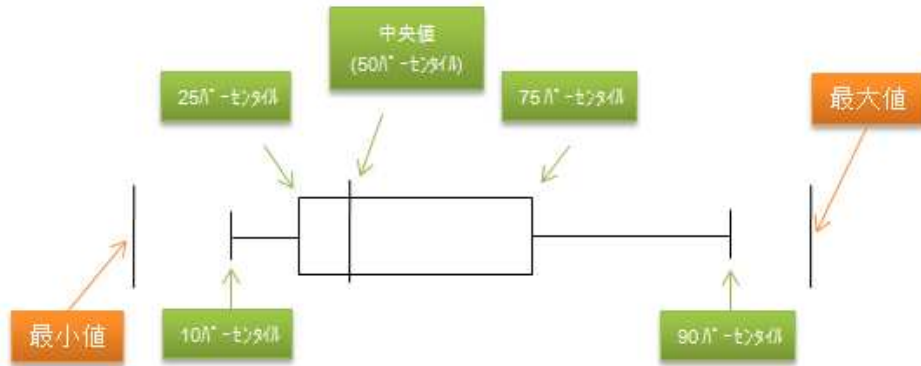
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30日以内)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30日以内)先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



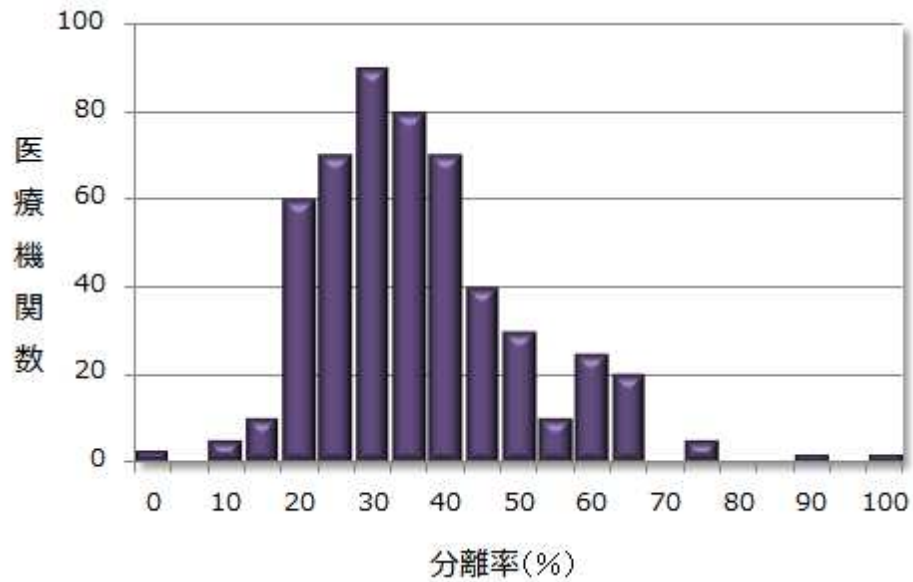
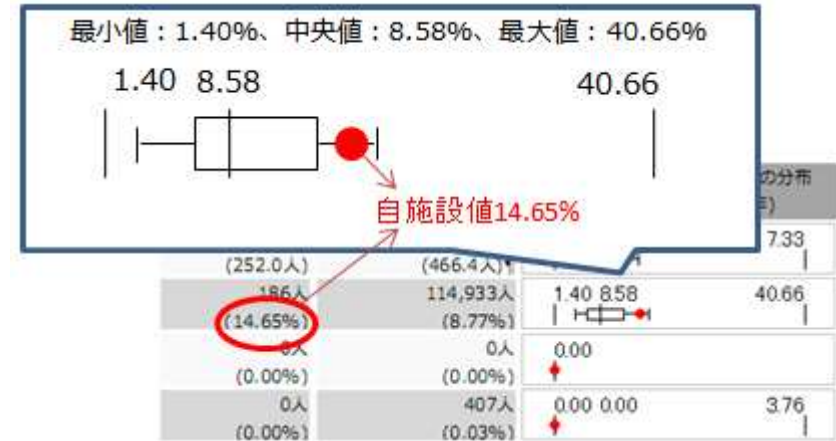
【巻末資料3 箱ひげ図について】

1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



2. 還元情報の箱ひげ図



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したものの。
 例えば、10 パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。